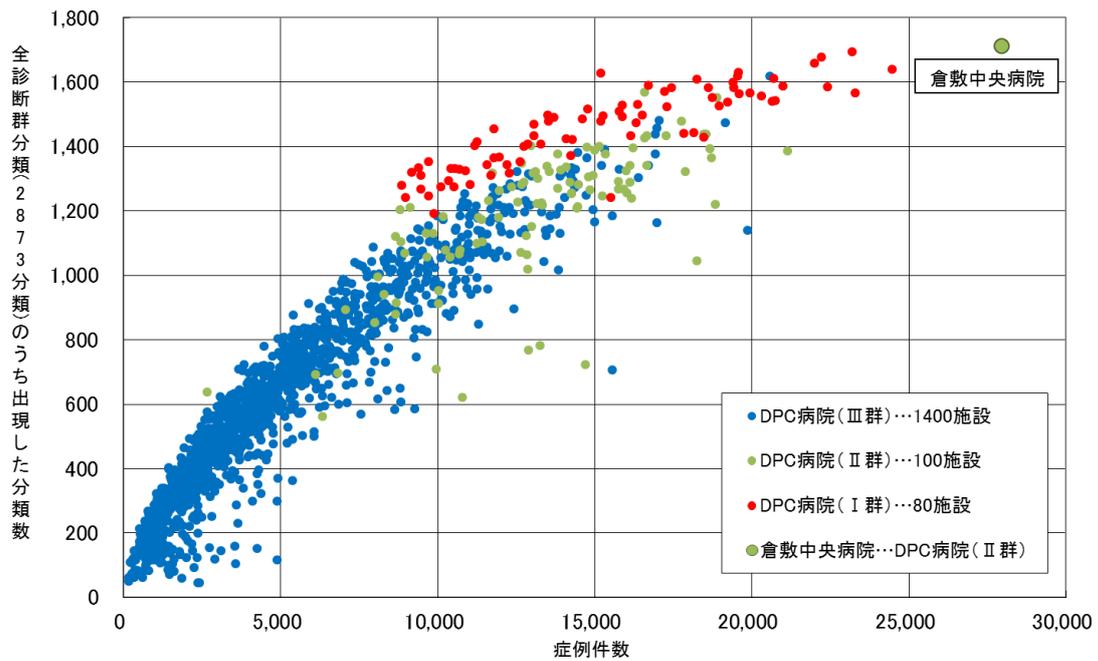


## 公益財団法人倉敷中央医療機構倉敷中央病院呼吸器内科



当院は地域中核医療機関として、臨床中心の高機能病院として地域医療への貢献をめざしています。ベッド数は1,162床で、下図のように、厚労省公開のDPC病院のデータでは、症例件数および出現分類数（経験した疾患の種類）の両方において全国のトップとなっています。



疾病 頻度表 2017 年度

延べ退院患者数, 一般内科入院を除く

肺癌	613
肺炎	350
間質性肺炎及び肺線維症	144
気管支喘息	63
肺気腫および慢性閉塞性肺疾患	46
膿胸・胸膜炎(癌性を除く)	46
気胸	36
呼吸不全	28
肺非結核性抗酸菌症	22
膠原病性肺疾患	22
喀血・気道出血	20
器質化肺炎	18
胸膜中皮腫	17
薬剤性肺炎	16
インフルエンザ	15
心不全	15
睡眠時無呼吸症候群	14
肺その他の結核	12
肺アスペルギルス症	11
胸腺腫・胸腺癌	10

呼吸器内科は、ベッド数 95-100 床を有するわが国でも屈指の規模の科であり、2018 年度は、年間入院患者延べ 2860 名を担当しており、気管支鏡検査は 612 件で、平均在院日数は 15.3 日でした。左表は、年間延べ患者数の上位 20 疾患を示したものです。急性期から慢性期に至るまで、呼吸器分野におけるほとんどすべての疾患を網羅しています。シニアレジデントは、研修期間中に ICU 研修や、希望があれば他科研修も可能であり、海外出張の特典も有ります。病院としても国内および海外研修留学制度を設けています。また、数多くの治験を手掛けています。

このように、多忙な臨床を行うとともに、臨床研究や対外的な活動にも注力しており、2016 年度は、全国学会発表 11 題、特別講演・シンポジウム 10 題、地方会発表 8 題、海外学会発表 7 題を発表し、和文論文・総説 8 編、英文論文 11 編の執筆あるいは発表に関与しました。これらの対外的な活動が、全国的にも評価をいただくことができ、石田は、2015 年度日本感染症学会二木賞受賞

および 2016 年度日本内科学会 Award for Outstanding Reviewers に選出されました。また、伊藤は 2014 年度および 2016 年度の日本化学療法学会学術奨励賞を受賞しています。また、各種学会の多くの委員会に参加しており、全国的な臨床研究グループにも属しています。

このような当科ですが、若い医師が多く、毎年多くの人事異動があり、仕事量に対して人材不足の状態が続いています。先端の臨床や臨床研究に興味のある若手および中堅の先生方は、ぜひ当院での勤務もご検討ください。

(文責 石田)

